

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-257151

(43)公開日 平成10年(1998)9月25日

(51)Int.Cl.^a
H 04 M 1/27
G 06 F 3/14 3 8 0
G 09 G 5/02
5/08
H 04 Q 7/32

識別記号 F I
H 04 M 1/27
G 06 F 3/14 3 8 0 A
G 09 G 5/02 E
5/08 C
H 04 M 1/00 W

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平9-61447

(22)出願日 平成9年(1997)3月14日

(71)出願人 000001122
国際電気株式会社
東京都中野区東中野三丁目14番20号

(72)発明者 渡辺 賢人
東京都中野区東中野三丁目14番20号 国際
電気株式会社内

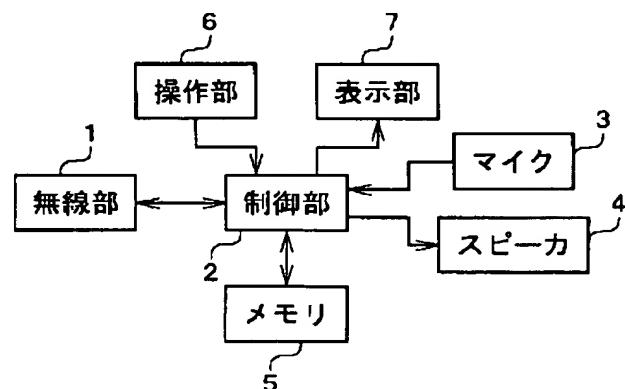
(74)代理人 弁理士 船津 暢宏 (外1名)

(54)【発明の名称】携帯電話機

(57)【要約】

【課題】従来の携帯電話機では、誤操作を招いて利便性が低いという問題点があったが、本発明では、状態に応じてカーソルの形状等を変えて利便性を高めることができる携帯電話機を提供する。

【解決手段】制御部2が操作部6から文字を入力する際に、変換状態であるとカーソルを第2のカーソルとして全角のカーソルとし、確定状態であるとカーソルを第1のカーソルとして下半分のカーソルとし、変換状態と確定状態とを容易に識別できる携帯電話機である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 文字の入力における変換状態と確定状態とによってカーソルの状態を変えることを特徴とする携帯電話機。

【請求項2】 カーソルの形状、点滅速度、輝度、色、若しくはそれらの組み合わせを変えることでカーソルの状態を変えることを特徴とする請求項1記載の携帯電話機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電話帳機能のような付加的機能を備える携帯電話機に係り、特に文字を入力する際の利便性を高めることができる携帯電話機に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の携帯電話機について図1を使って説明する。図1は、携帯電話機の構成ブロック図である。携帯電話機は、一般的に図1に示すように、無線部1と、制御部2と、マイク3と、スピーカ4と、メモリ5と、操作部6と、表示部7とから基本的に構成されている。

【0003】以下、各部を具体的に説明する。無線部1は、制御部2から入力される信号を送信出力するものであり、アンテナに到来する信号を受信して制御部2に出力するものである。

【0004】制御部2は、無線部1から入力される信号が自己宛であるか否かを調べ、自己宛であると、着信して通話状態となり、マイク3から入力される音声信号を無線部1に出力するものであり、無線部1から入力される音声信号をスピーカ4を介して鳴動出力するものである。

【0005】また、制御部2は、操作部6から入力をされる指示に従って、電話帳データ等をメモリ5に格納し、また、当該電話帳データ等を表示部7に表示出力するものである。メモリ5は、電話帳データ等を格納しているものである。操作部6は、具体的には、図2に示すようなキーの一例である。図2は、操作部6のキーの配列の一例を表す説明図である。

【0006】ここで、従来の携帯電話機において、文字を入力する際の操作の一例について、例えば「イケブクロ」と入力する場合を例にとって、図4を参照しつつ説明する。図4は、従来の携帯電話機の表示内容の一例を表す説明図である。利用者は、まず、「イ」を入力すべく、図2の「ア」のキーを押下して、「ア」を入力し(S1)、さらに「ア」のキーをもう一度押下して「イ」を表示させる(S2)。この段階では、カーソルは「イ」の文字上で点滅している状態となっている。

【0007】ここで、もし利用者が、もう一度「ア」のキーを押下すれば、カーソルの位置にある文字は「イ」から「ウ」と変化するので、以下、この状態を「変換状

態」と称することとする。

【0008】ここで、次に入力すべき文字が「ケ」であるので、次に「カ」のキーを押下して「カ」を表示させる(S3)。このとき、カーソルは「カ」の文字上で移動して点滅しているようになる。そして、利用者がもう一度「カ」のキーを押下して「キ」を表示させ(S4)、以降「ケ」の文字ができるまで、さらに二度「カ」のキーを押下する。

【0009】この状態S4のとき、カーソルは「キ」、「ク」、「ケ」の上で点滅しているようになっている。一方、状態S3のとき、利用者が誤って、右向きの三角形のキーを押下してしまうと、カーソルは、次の入力位置に移動して点滅するようになる(S5)。

【0010】そして、利用者が、左向きの三角形のキーを押下すると、カーソルは「カ」の文字上で点滅しているようになって(S6)、あたかも状態S3又は状態S4と同じであるかのようになるが、ここで、「カ」のキーをもう一度押下しても、新たに「カ」の文字が入力されて全体として「イカカ」となり、「カ」が「キ」に変わることがなく、状態S4にはならない。

【0011】ここで、状態S6のように、次に「カ」のキーを押しても「キ」には変わらず、新たに文字が入力される場合は、既に変換した文字が確定していることを意味しているので、以下、「確定状態」と称することとする。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】このように、上記従来の携帯電話機では、変換状態と確定状態において、カーソルが同じ形状であるので、誤操作を招いて利便性が低いという問題点があった。

【0013】本発明は上記実情に鑑みて為されたもので、状態に応じてカーソルの形状等を変えて利便性を高めることができる携帯電話機を提供することを目的とする。

【0014】

【課題を解決するための手段】上記従来例の問題点を解決するための請求項1記載の発明は、携帯電話機において、文字の入力における変換状態と確定状態とによってカーソルの状態を変えることを特徴としており、利用者の誤操作を防止して利便性を高めることができる。

【0015】上記従来例の問題点を解決するための請求項2記載の発明は、請求項1記載の携帯電話機において、カーソルの形状、点滅速度、輝度、色、若しくはそれらの組み合わせを変えることでカーソルの状態を変えることを特徴としており、利用者の誤操作を防止して利便性を高めることができる。

【0016】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を図面を参照しながら説明する。本発明の実施の形態に係る携帯電話機(本電話機)は、文字の入力における変換状態と確定

状態とによってカーソルの形状等を変えるもので、誤操作を防いで、利便性を高めることができる。

【0017】本電話機は、図1に示す従来の携帯電話機と同様の構成を有するものであるが、制御部2における文字の入力時の動作が少々異なっている。そこで、以下制御部2の文字の入力時の動作について具体的に説明すると、制御部2は、変換状態では、変換状態にあることを表す第1のカーソルをカーソルとして表示するものであり、また、確定状態では確定状態であることを表す第2のカーソルをカーソルとして表示するものである。

【0018】具体的には例えば、図3に示すように、第1のカーソルを文字の下部のみを覆う形状とし、第2のカーソルを図4に示した従来のカーソルと同様に文字の全体を覆う形状とすることが考えられる。図3は、本電話機の表示内容の一例を表す説明図である。

【0019】ここで、具体的に、本電話機に従来と同様に「イケブクロ」と入力する場合を例にとって説明する。まず、利用者が「ア」のキーを押下すると、本電話機が「ア」を表示する(S11)。このとき、カーソルの形状が第1のカーソルとなって、「ア」の文字の上で点滅するようになる。

【0020】そして、利用者がもう一度「ア」のキーを押下すると、本電話機が「イ」を表示するようになる(S12)。このときも、カーソルの形状は第1のカーソルのままである。次に、利用者が「カ」のキーを押下すると、本電話機が「イ」の次の位置に「カ」を表示するようになって(S13)、カーソルは第1のカーソルの形状のまま、「カ」の文字上で点滅しているようになる。

【0021】ここで、利用者がさらに「カ」のキーを押し続けければ、カーソルは第1のカーソルの形状のままで、表示内容が「キ」、「ク」、「ケ」と変化するようになる(S14)。また、状態S13のときに、利用者

が誤って、右向きの三角のキーを押下してしまうと、本電話機が「カ」の次の位置に第2のカーソルの形状のカーソルを点滅させて表示するようになる(S15)。

【0022】そして、利用者が左向きの三角キーを押下すると、カーソルが第2のカーソルの形状のままで、「カ」の文字上で点滅するようになる(S16)。こうして利用者は、ここで「カ」のキーを押下しても「キ」には変わらず、すでに確定状態となっていることを知るようになる。

10 【0023】本電話機によれば、利用者の誤操作を防止して利便性を高めることができる効果がある。尚、ここでは、カーソルの形状を変えるようしているが、点滅速度、輝度を変化させ、また本電話機がカラーの表示部を備えている場合には、カーソルの色を変化させるようにすることも考えられ、さらに形状と点滅速度、輝度、色等の組み合わせを変化させるようにしても構わない。

【0024】

【発明の効果】請求項1、2記載の発明によれば、文字

20 の入力における変換状態と確定状態とによってカーソルの状態を変える携帯電話機としているので、利用者の誤操作を防止し、利便性を高めることができる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】携帯電話機の構成ブロック図である。

【図2】操作部6のキーの一例を表す説明図である。

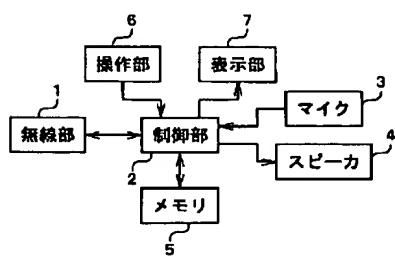
【図3】本電話機の表示内容の一例を表す説明図である。

30 【図4】従来の携帯電話機の表示内容の一例を表す説明図である。

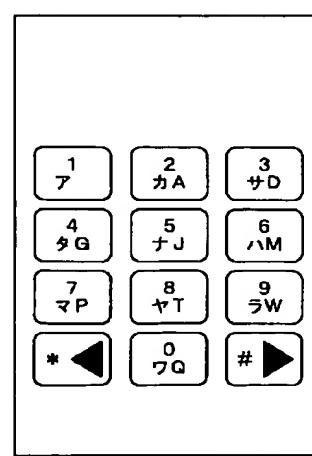
【符号の説明】

1…無線部、2…制御部、3…マイク、4…スピーカー、5…メモリ、6…操作部、7…表示部

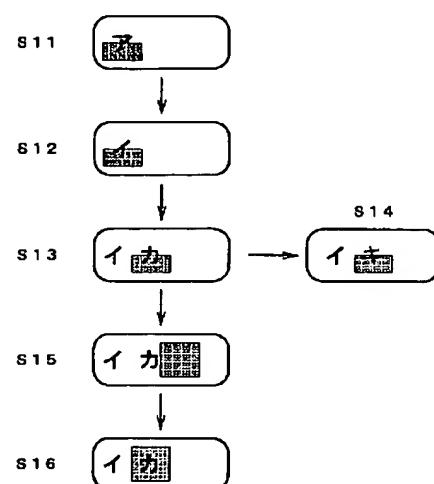
【図1】



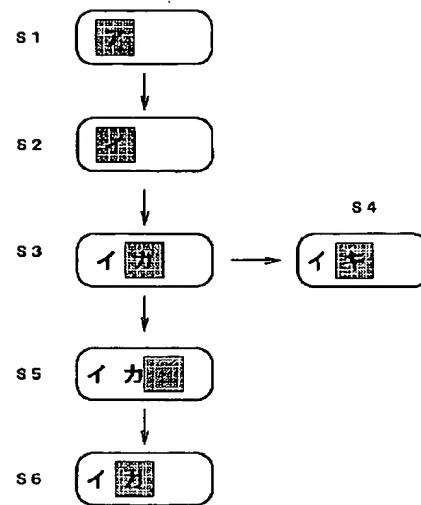
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(51) Int.C1. 6

識別記号

F I

H 0 4 M 1/00

H 0 4 B 7/26

V